

“あのころ”のまてりあ

『日本金属学会会報発刊の辞』

巻頭 大日方 一司 著 日本金属学会会報 第1巻(1962)第1号 2~3頁

案内人 東北大学 竹田 修

日本金属学会会報は、1962年(昭和37年)に創刊されました。今から58年前のことです。当時の編集委員会委員長は竹内榮先生(東北大学)でした。創刊号には日本金属学会第13代会長 おおひなた 大日方 いちじ 一司 先生(東北大学)が祝辞を寄稿されました。企画“あのころ”のまてりあ 第1回ではその記事(次頁)をご紹介します。

日本金属学会が発足したのは1937年(昭和12年)であり、同年日本金属学会誌が創刊されました。欧文誌 Transactions of the Japan Institute of Metals が創刊されたのは1960年(昭和35年)で、会報が一番若い歴史を持つということになります。それまでは、日本金属学会誌に学術論文以外の会員サービスの記事が掲載されていましたが、学会規模の拡大と共に会員サービスの記事を会報へと発展的に集約し、刊行物の機能分化が進みました。会報の充実には編集委員会、事務局はじめ、多くの会員の負担・尽力が必要であり、そのことに対して大日方先生は労をねぎらっておられます。一方で、当時、学会会員が9千人に達して、各分野における一流の学者・技術者を抱えており、会報の権威発揮に強い確信を有していることが読み取れます。

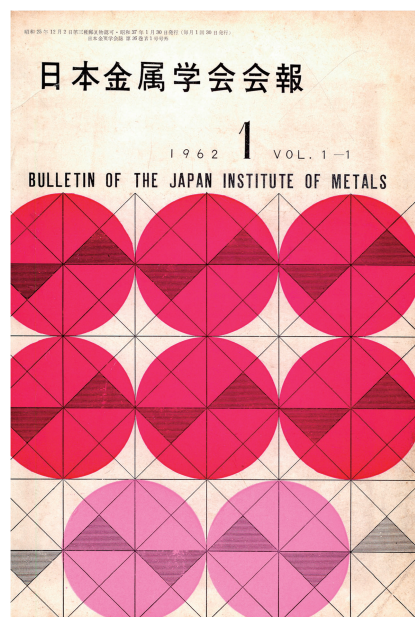
記事では、会報の当初の編集計画が分かります。内容を抜粋すると、第1部 時評、随筆、随想、総説、論説；第2部 解説、進歩総説、技術資料、技術解説等；第3部 技術相談室、ニュース、メモ、新製品紹介等；第4部 外国文献、論文概要、新刊紹介、特許；第5部 編集後記、です。個人的に面白いと思うのは、第3部で「座談会」というジャンルがあることです。座談会については、今後、この企画で取り上げますのでご期待ください。

感心させられるのは、会報創刊の準備として、会報のあり方について会員にアンケートをとり、多くの意見を取り入れたという事実です。意見の詳細は記事を読んで頂きたいのですが、どの意見も真摯かつ建設的なもので、会報内容の学術的水準を高く保つことを求めています。大日方先生はそれを汲み取り、会報の充実に向けた強い決意を示されています。

一方で、内容がアカデミックになりすぎることを懸念されています。個人的には、学問に寄りすぎて産業から離れすぎないように、また、専門家ばかり想定して初学者や異分野の研究者への門戸を狭めないようにとのメッセージと解釈しています。当該のバランスをとることは、今も昔も編集委員会にとって悩ましい課題です。ただ、会報は会員全員で作上げるものであり、頼りがいのある会員皆様のお力を借りながら、よりよい誌面を希求してゆきたいと思っています。

先見の明のある記事、ぜひ一読を。

(2019年11月5日受理)[doi:10.2320/materia.59.213]



■記念すべき第1巻第1号は、B5版の大きさと始まりました。

日本金属学会会報発刊の辞

会長 大日方 一 司



1962年の年頭、日本金属学会会報創刊に際し、会員各位に新春の御祝詞を述べる機会を得ましたことは、まことに光栄でございます。また昨春会長に就任以来、大過なく職責が遂行出来ましたことも、一重に会員各位の御声援、御指導の賜でありまして、この機会に深甚の謝意を表したいと思ひます。

さて本年度から新たに本誌、すなわち日本金属学会会報 (Bulletin of the Japan Institute of Metals) が創刊の運びとなりました。従来の日本金属学会誌 (Journal of the Japan Institute of Metals) はそのまま継続して発行され、学術論文のみの掲載が行われることになります。本会にはこのほかに、一昨年から発行され始めた欧文誌 (季刊) “Transactions of the Japan Institute of Metals” がありますので、合計3種の定期刊行物を発行する運びとなりました。本会創立当時からみますと、大きな発展であります。このことはわが国金属関係の科学、技術の進展に即応する必然の企画であるといえましょう。しかしながら、この新しい企画を完遂することは、学会にとっては、まことに大きな負担であります。ことに編集委員会および事務局に課せられる責務は甚だ大なるものがあります。幸いに編集委員長始め、委員並びに事務局の各位は、その職責の重大な事実をよく認識して、これが対処に万全を誓つておられます。この機会に、会員の皆様方と共に編集関係の方々に対し、深甚な謝意を表したいと思ひます。

会報には次のような内容の記事が順次に掲載されると聞いております。

部 門	概 頁	内 容 項 目
第 1 部	2	時評・随筆・随想・総説・論説
第 2 部	40	解説・進歩総説・技術資料・技術解説・集録・研究総合論文・最近の研究・研究展望・調査報告
第 3 部	7	技術相談室・ニュース・メモ(新用語解説)・新製品紹介・国際会議等紹介・工業統計・工場・研究所紹介・他学会研究グループ等紹介・講演会催物など・会員消息・支部活動・分科会活動・掲示板・談話室・座談会
第 4 部	20	外国文献・論文概要・新刊紹介・特許
第 5 部	1	編集後記



これらの記事の多くは、予め編集委員会の企画に基づいて、会員の中から、それぞれの分野の権威者または経験者を選んで執筆を依頼することとなるわけでありますから、皆様方の御協力なくしては優れた内容のものとはなり得ないわけであります。幸い、金属学会はすでに9,000に及ぶ会員を擁し、各分野に渉る多くの権威者、経験者をもうらしておりますので、これらの知識を反映して、立派な内容の会報を発行し得るものと信じて疑いません。

会報には、日本金属学会誌に掲載された学術論文の内容の抜粋が掲載されることになっております。短時間のうちに、本会における学術研究の動向を把握し得るでありましょう。また前掲内容項目中、第3部門担当の欄は、誌上を通じて会員相互の関係を密にすることが出来る企画であると思えます。

なお、本会報発行以前に、編集委員会はその内容のあり方についてアンケートを求め、会員多数の方々からの御回答を戴いております。その回答の中には、建設的な貴重な御意見が多数見出されましたが、例えば会報内容のレベルの点については、学会誌従来程度のよく、市販の技術雑誌までレベルを下げることなく、会報の権威を保ち、通俗化することは反対であるとの回答が多数を占めておりましたことを付言いたします。そのほか、外国文献欄を強化せよとか、技術解説、総合論文、講義などは羅列式、教科書的でなく、重点的なほり下げが必要であるとか、基礎的な講義はたとえそれがくり返えしであつても、掲載すべきである等々の御意見もありました。別な事柄ですが「遅刊させるな」の御回答には、まことに恐縮し、それぞれ関係方面に努力方を要望しておきました。

本会報編集委員の多数は、金属に関する科学、技術の研究に専念しておられる方々であります。従つて本会報を、上記御要望のレベルに押えることは、むしろ容易であると考えます。私は逆にアカデミックになり過ぎることを恐れるものでありますが、いづれにしても、新刊誌のあり方は抽象的にはどう議論されても、問題はその実績をみて初めて具体化されることになりましょう。会員の皆様と共に、会報今後の進展を見守り、あくまでも皆様の会報となるよう、逐次改善を重ねて行きたいと考えます。

会報創刊に際し、いささか所見を述べて発刊の辞といたします。